

## 小市保育園 アプローチカリキュラム

### 1. アプローチカリキュラムの策定にあたって

平成 20 年 3 月の保育所保育指針改訂により、「小学校との連携」に関わる指針が明記されたことに加え、平成 27 年 4 月には子ども・子育て支援新制度が開始されたことで、保育所と小学校の接続に関わるより具体的な取り組みが求められるようになりました。

これに伴い、小市保育園（以下、当園）では従前取り組んできた就学に向けた活動を整理するとともに、長野市役所及び長野市教育委員会主導の下行われている「幼保小連携会議」における検討内容を踏まえ、当園独自のアプローチカリキュラムの策定を行います。

なお、策定は当園在園児の主要な進学先となる長野市立松ヶ丘小学校の先生方ご協力の下に行い、適宜見直しを図って参ります。

《参考》 長野市における幼児教育と小学校教育の接続のあり方（平成 27 年度 幼保小連携会議 配布資料より抜粋）

#### ①子どもの「育ちをつなぐ」ために幼保小で共有したい3つの【観】

- (1) 遊び・学び観 …… 「自己決定」に基づく「試行錯誤」による「自己実現」
- (2) 子ども観 …… 子どもは「自ら育っていかようとする存在」
- (3) 支援観 …… 「そこにいる」「信じて待つ」「関心を寄せて見守る」という支援

☞ このような【観】を踏まえた「遊び・学び」の中でのキーワード

「自己決定」「試行錯誤」「自己実現」「五感を使った身体的な遊び・学び」「共感」「肯定的な受け止め」

☞ このような【観】の共有により期待される子どもの育ち

「自信」「自己肯定感」「知的好奇心」「興味・関心・意欲」「自主性・主体性」

#### ②なぜ「幼保小連携」か？ ～幼保と小をめぐる「壁」の問題～

- (1) 内容の「壁」 …… 内容や活動の場などの自由度の高い「遊び」中心の生活から、教室中心で内容が明確に規定された「教科学習」中心の生活へ
- (2) 自立の「壁」 …… 登下校を保護者に付き添ってもらった生活から、登校班等、子どもだけで登下校する生活へ
- (3) 立場の「壁」 …… 最年長者として「幼稚園、保育園のリーダー」として「面倒を見る」立場から、最年少者として上級生や先生に「面倒を見てもらう」立場へ
- (4) 人の「壁」 …… 慣れ親しんだ友達、先生との生活から、初めて出会う友達、これまでと感の違う先生、目線の違う上級生との生活
- (5) 時間の「壁」 …… ゆるやかな枠付けでの生活から、「授業時間」「休み時間」といった明確に枠付けられた生活へ

☞ 「[壁]をなくす」のではなく、教師が「[壁]を意識する」ことで、子どもが自ら「壁」を乗り越えていく

2. アプローチメニュー

No.	活動内容	意図(ねらい)	具体的な手立て	壁のジャンルと乗り越えるための支援				
				内容	立場	自立	人	時間
1	食事時間の短縮	○保育園での給食習慣を小学校での給食習慣に合わせることで進学後の日常生活のリズムをつかむ	○年長児に進級当初、概ね 40 分程度かけて食べていた給食を徐々に短縮し、30 分で食べ切れるよう言葉掛けを行う	○箸の持ち方、正しい姿勢での食事、三角食べ、よく噛んで食べることを見直す		○何事にも意欲を持って取り組めるよう言葉掛けをする	○周りを見て姿勢を整えたり、ペースを合わせるなど、周りを意識するようにしていく	○時計を確認しながら、時間を気にしつつも楽しく食べられるようにする
2	午睡時間の短縮	○就学に備え、一日の活動が午睡をとらなくてもできるような生活リズムを整える	○10 月以降徐々に午睡時間を短縮していき、12 月末を目処に午睡無しで活動できる体づくりを目指す	○体を休める時にはしっかり休み、時間にメリハリをつけていくようにする		○午睡中の年中クラス以下のことを考え、静かにするというルールを守れるようにする		○その日の活動内容により、無理のないよう減らしていく
3	当番活動の推進	○進学後は生徒同士が相互に協力し合う生活になることを見越し、園内であらかじめその習慣付けを行う	○クラスをグループ分けし、掃除当番や給食当番など、園児同士の自立した生活習慣を身に付ける	○小学校と同じやり方を取り入れる(雑巾のしぼり方、かけ方、ほうきの使い方、配膳の仕方など)	○難しいと思うことは上級生や先生に助けてもらえることを知らせる	○自分からという気持ちとみんなで協力する気持ちを大事にする	○様々な友だちと関わる中で、自分の考えを発言したり、友だちの考えを聞きながら活動を進められるようにする	○当番活動する時間を決め、時間内に行えるようにしていく
4	挨拶、返事の励行	○良好な日常生活の基本となる挨拶や、教科学習の基本となる指名されてから返事をするという習慣を身に付ける	○主活動や日常生活の中で挨拶や返事の習慣付けに取り組む	○挨拶をして始まり・終わりがあつたことを知り、真似してみる。 ○元気に返事を 1 回したら、後は待つということを知らせる	○正しい言葉遣いについても簡単なことから教えていく	○人の話を聞く姿勢を都度伝えていく	○近所の方々や保育園に来る人(来客)にもきちんと挨拶ができるようにする。	
5	小学校について理解を深める	○これから進学する小学校とはどんなところか理解を深めることで進学に対する興味や期待感を高める	○絵本による読み聞かせ ○時間割など小学校と保育園での時間の過ごし方の違いについて伝える	○進学することが楽しみになるような内容にする(歌や授業、道具、行事などについて伝える)	○1 年生になると 2~6 年生までの上級生がいることと、その関わり方を伝えていく	○自分のことは自分ですることの大切さを伝えていく	○同級生となる近隣の保育園年長児と関われる時間を設ける	○小学校の生活のような時間の流れを実際に試してみる

No.	活動内容	意図(ねらい)	具体的な手立て	壁のジャンルと乗り越えるための支援				
				内容	立場	自立	人	時間
6	小学校との交流	○小学校へ出かけたり、小学生と触れ合うことで、就学に対する興味や期待感を高める	○小学校へのお散歩 ○小学校のプール利用 ○小学生を園に招いて交流 ○小学校で小学生と交流 ○小学校の運動会に参加	○小学校に実際に出掛け、その施設を利用することで小学校に親しみを持ってもらう	○小学生と実際に触れ合い、交流することで安心して進学できるように関わり方を援助していく	○小学生のようになりたいたいと思うように小学生の良いところをみんなで見つける	○消極的な子には引っ張っていってくれそうな小学生、というように1対1の関わりの時には相性を考慮して組み合わせる	○短時間でも実りある交流になるよう計画する ○年間を通し、複数回交流を重ね、小学校との関係を深めていく
7	ひらがなの学習 (読み書き)	○ひらがなを読めるようにすることで就学をスムーズにする ○体験的な教科学習を実施することで、進学に対する期待や興味を高める ○学びの初歩を楽しく取り組むことで小学校への移行をスムーズにする	○園内(特に保育室内)の掲示物は絵とひらがなを並記するよう配慮する ○園内での読み聞かせの時間を増やす ○絵本の貸し出しを行い、家庭での読み聞かせを促進する ○保護者への啓発として読み聞かせに関するおたよりを配布する ○かるた会の開催 ○卒園文集作成の一環として自力での記名を目標に、ひらがなの書き方を教える ○教材を使用しながら保育士が書き順を伝え、園児一人ひとりがなぞり書きに挑戦する	○学習においては、導入できちんと書く姿勢、鉛筆の持ち方をその都度確認する ○卒園文集作りを通して文字に興味を持ち、自力での記名を通して達成感や学ぶ楽しさを味わう		○園児たちの良いところをたくさん認め、自信につなげていく ○間違えたり、分からなくても大丈夫だということを伝え、安心して取り組めるようにする ○読んでもらっていた本を自分で読めるようにし、学ぶ喜びを味わい、学習に対する意欲を高める	○自分の考えを発言したり、友だちや保育士の話に集中して聴けるようになる	○はじめは短時間で設定し、徐々に取り組む時間を増やしていく
8	リトミック	○外部講師による教室を開き、講師対園児という関係性のなかで時間を過ごすことで教科学習に備える	○リトミック研究センターの専任講師数名によるリトミック教室の開講(隔週)	○ピアノなどの音のリズムに合わせて体を動かす ○合図や指示を聞き分けて行動する		○自分らしくのびのびと表現する楽しさを味わう	○保育園の先生以外の先生とのやりとりや関わり方を楽しむ	○決められた時間内を集中して参加できるようにする

No.	活動内容	意図(ねらい)	具体的な手立て	壁のジャンルと乗り越えるための支援				
				内容	立場	自立	人	時間
9	<p>体育</p> <p>○体操を通じ、できなかったことが頑張ることで『できた!』に変わる喜び(達成感)を知り、自分に自信を付けるとともに、挑戦する力や我慢してやり抜く力を育む</p> <p>○運動会を通し集団競技の楽しさや協力し合うことの大切さを理解する</p> <p>○ルールを守って喜びや悔しさを味わう</p> <p>○互いに刺激し合いながら取り組むことでお互いの力を高め合う人間関係を築く</p>	<p>○コスモスポーツクラブの専任講師による体育教室の開講(毎週)</p> <p>○体育教室が無い日は保育士が中心となって継続して運動に取り組む</p> <p>○運動会の開催し、年長児は集団体操に挑戦する</p> <p>○逆上がりは就学前までにクラス全員の達成を目指す</p>	<p>○毎週の体育教室の中で専任講師による適切な指導を行う</p> <p>○体育教室が無い日でも保育士が継続して体育の活動を支援し、クラス全員が逆上がりを達成できることを目指す</p> <p>○運動会の他に参観日等、体育の成果を発表する場を設け、園児の自信につなげていく</p>	<p>○運動会では安全に十分に配慮しながら集団体操を実施し、チームワークの大切さを知ってもらい、思いやりの心を育む</p>	<p>○様々な運動を通し、達成感を得る経験を積み重ねることで自信と積極性を育む</p>	<p>○園児同士が刺激し合いながら取り組んでもらえるよう、体育達成表を作成し、保育室に掲示する</p>	<p>○決められた時間内を集中して参加できるようにする</p>	

3. 年間カリキュラム表

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>年間を通じて対応している活動内容</p> <p>1. 食事時間の短縮</p> <p>食事時間の短縮      言葉掛け</p> <p>3. 当番活動の推進      年少より継続</p> <p>グループ分け (季毎)      掃除当番      給食当番</p> <p>4. 挨拶、返事の励行      年少より継続</p> <p>朝の会のご挨拶      食事のご挨拶      言葉掛け      教科学習での返事の練習 (記名の練習に合わせて)</p> <p>7. ひらがなの学習      年少より継続</p> <p>読み聞かせ      絵本の貸し出し      おたより配布 (季毎)      かるた会 (1月)      記名の練習 (1月～)      卒園文集作成 (2月)</p> <p>8. リトミック      年少より継続</p> <p>リトミック教室の開講</p> <p>9. 体育      年少より継続</p> <p>体育教室の開講      毎日練習を継続      運動会 (10月)      成果発表 (参観日等)</p>											
<p>6. 小学生との交流 ▶ お泊り保育の翌朝に行く松ヶ丘小学校へのお散歩を機に徐々に進める</p> <p>小学校へのお散歩      小学校の運動会に参加      小学生との交流会      小学校の施設を利用</p>											
<p>5. 小学校について理解を深める ▶ 小学校の運動会に参加後、徐々に進める</p> <p>読み聞かせ</p>											
<p>2. 午睡時間の短縮 ▶ 保育園の運動会前後、徐々に進める</p> <p>午睡時間の短縮      活動時間の延長</p>											

【参考】平成 27 年度のアプローチカリキュラムの反省点（小学校との協議後、園内で行った検討結果）

No.	課題または小学校での活動とのギャップ	壁のジャンル					対応策	備考
		内容	立場	自立	人	時間		
1	小学校は団体行動をとることが多いが、その際、周囲に合わせて一斉に行動できる子とできない子がいる。			○			団体行動をとれるようになるには、先生の話静静地に聞けることが必要。保育園では短い時間に集中して、静静地に話を聞ける習慣を付ける。	
2	鉛筆の持ち方が悪い子がいる。	○					鉛筆の持ち方は小学校で正しい持ち方を最初に教える為、癖が無い方が望ましい。よって、保育園では極力鉛筆を持たせず、クレヨンやクーピー等を用いた筆圧を強くするための取り組みを行う。（但し、制作に用いる色鉛筆などは可）	
3	言葉の能力に差があり、就学後のスタートでつまづいてしまう子がいる。	○		○			全員がひらがなを読めることを目標に読み聞かせの時間や読書の機会を増やす。 自分の言葉で自分を表現できるよう、人前で話す機会を増やす。	
4	時間を意識した行動ができない子がいる。	○		○		○	制作に取り組む際などに時間を細かく区切って短い時間に集中して取り組める習慣付けを行う。	
5	当番活動の内容に開きがある。例えば、小学校では給食の際、クラスの生徒全員が何かしら当番に従事しており、ただ待っているだけの状態を作っていない。（相互に協力し合う関係が築けている。）	○	○	○	○		松ヶ丘小学校を実際に見学したが、役割の見直しについては園内で継続検討中。 雑巾のしぼり方・かけ方、ほうきの使い方、配膳の仕方などは小学校と同じやり方を取り入れる。	